

第2回 JART / JSRT 合同学術セミナー

『真の医療安全を求めて－医療被ばくの低減と被検者に対する説明責任－』

開催日時：平成20年8月30日（土）13:15～17:30

開催場所：『女性と仕事の未来館』ホール（JR 田町駅三田口より徒歩3分）

医療安全の分野では、施設をあげて多くの時間と労力さらには経費を割き、被検者がいつでも安心して診療を受けられる態勢づくりに向けた取り組みが行われている。その一方で、放射線検査部門における医療被ばくに関連した諸問題の対応状況はいかがだろうか。

検査を受けた被検者から寄せられる放射線に対する不安や心配の声は、いまなお数多くわれわれに向けられている。市民が不安や心配を抱えたまま放射線診療を受けている現状を考えると、真の意味での医療安全の確保には至っていないことをわれわれ診療放射線技師は重く受け止める必要がある。

第2回合同学術セミナーでは、診療放射線技師にとって古くて新しい、医療被ばくをテーマとして取り上げた。放射線を取り扱う専門家として、共通認識を構築するとともに、市民がいつでも安心して放射線診療を受けられる態勢を整えるための具体的な取り組みについて議論したい。

13:15 開会挨拶 （社）日本放射線技師会会長 北村善明
（社）日本放射線技術学会会長 小寺吉衛

13:30～14:30 基調講演 『わが国の医療被ばくの現状と内在する諸問題』
（社）日本放射線技師会
医療被ばく対策委員会委員長 中村 豊

14:35～15:35 シンポジウムⅠ『医療被ばくの低減に向けて』
司会 富吉 司（日本放射線技術学会学術委員長）
(1) X線診断時に患者が受ける線量
鈴木 昇一（藤田保健衛生大学）
(2) CT用自動露出機構（CT-AEC）における被ばく低減について
大沢 一彰（恩賜財団済生会中和病院）
(3) 医療被ばく低減に対する技術学会の取り組みと見解
加藤 英幸（千葉大学医学部附属病院）

15:45～16:45 シンポジウムⅡ『患者・市民に対する説明責任』
司会 諸澄 邦彦（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）
(1) 医療被ばく情報の混乱について
村井 均（日本郵政公社仙台通信病院）
(2) 医療被ばく低減施設認定を通じて
村岡亜友美（国立病院機構九州がんセンター）
(3) レントゲン手帳の活用について
佐川 良（独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院）

16:45～17:30 総合討論